



教育目標 ◎自分で深く考える子 ◎思いやりをもって助け合う子◎がんばってやりとげる子

佐々木小

～一人一人が輝き、幸せな学校～

令和7年4月11日
新発田市立佐々木小学校
学校だより 第1号



さあ始めよう！新しい1年を！

4月9日（水）に入学式が行われ、18名の新しい1年生が佐々木小学校の一員となりました。令和7年度は、全校児童120名でのスタートです。

入学式では、1年生が凛とした姿勢で式に臨み、華やかで温かみのある入学式になりました。一人一人の呼名の場面では、しっかりと返事をしたり拳手をしたりして、堂々とした姿を見せてくれました。すぐに学校に慣れ、大活躍してくれそうで、今から楽しみです。

一緒に入場してくれた6年生、式の最中ずっと温かく見守ってくれた2年生から5年生、みんなで1年生を迎えようとする子どもたちの姿は、正に一つの家族のようです。この佐々木小学校のアットホーム感を宝物にして、新しい1年の教育活動を充実させていきたいと思います。

この1年、「一人一人が輝き、幸せな学校」になるように教職員一同、力を合わせて全力で頑張ります。そして、昨年度同様、保護者の皆様、地域の皆様のご理解とご協力を賜りますようお願いいたします。学校・家庭・地域が一丸となって、子どもたちの健やかな育ちを支えていきましょう。

一人一人が耀く幸せな学校をつくりたい！

校長 金平弘之郎

※今回は、巻頭言をインタビュー形式にしています。

Q：校長先生！着任前、佐々木小学校は、どんな学校に見えていましたか？

A：前々から、地域との結びつきが強く、多くの方から支えられている素晴らしい学校だと感じていました。前任校も小規模校だったので、地域との強い絆、小規模校のよさをたっぷりと生かして子どもたちをすくすくと成長させている佐々木小学校を正直かなり意識していたところがあります。そこに着任することになり、ちょっと驚きました。

Q：佐々木小学校をこれからどんな学校にしたいですか？

A：佐々木小学校には、これまでの家庭・地域・学校の強い結びつきで積み上げてきた素晴らしいベースがあります。昨年度までお勤めいただいた齋藤校長先生が高めた「学校は学習するところ」「学校は友だちを思いやるところ」という意識が子どもたちに着実に浸透しています。教職員のチームワークも築き上げられています。私の役目としては、このベースに甘えて現状を維持しているだけに留まらず、さらにブラッシュアップすることだと思っています。

Q：先ほど小規模校との話がありましたが、小規模校をどのように捉えていますか？

A：私は、小規模校こそ、無限の可能性を秘めていると思っています。思いつくだけでも、子どもたちに対しては一人一人に目が届きやすいこと、教職員間では意思伝達・共通理解が図りやすいこと、学校全体では小回りが効き迅速に動けることなど、数え切れません。

例えば、年度当初、私が考えている学校の教育方針を職員に説明しました。今までにないようなことも提案しましたので、先生たちがびっくりするだろうと思っていました。でも、すぐに私の意を汲んでくれ、すでにいくつかの教育活動に反映されています。この意思伝達や動きの速さは、小規模校ならではのメリットと感じています。

Q：いくつかの考えをお持ちのようですが、少し教えていただけますか？

A：大きな柱は3つ、1つ目は「子ども真ん中」「子ども主体」の教育カリキュラム・教育活動を推し進めます。2つめは、1日中、子どもたちが主役（主体）となる日を設けたいと思います。遊びから学習まで、全校児童を関わらせ、自主・自律を育む幸せな1日を目指します。3つ目は、保育園と連携し、幼児期の学びを最大限に生かした幼保小架け橋プログラムを確立します。

Q：それらは、いつ頃、示される予定ですか？

A：できる限り早く示して、実施に向けて準備していきたいと思っています。学校の「グランドデザイン」、学びに特化した「学びのデザイン」の2つを4月中には示したいと思っています。1学期中に幼保小架け橋プログラムに基づいた学級経営計画・指導計画「ささきっ子プラン」の作成に着手し、その後段階的に進め、来年度完全な形でスタートさせたいと思います。

Q：最後に思いを一言！

A：周りから佐々木小の教育を見て、素晴らしい教育実践をしているな、地域と深くつながった教育をしているな、佐々木小は魅力にあふれていると感じてもらえるような素敵な学校にしていきたいと思っています。ぜひ、佐々木小の取組に注目し、応援してください。